

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																									
YMCA糸子医療福祉専門学校	平成5年12月20日	渡邊 達生	〒683-0825 鳥取県糸子市錦海町3-2-2 (電話) 0859-35-3181																																									
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																									
学校法人広島YMCA学園	昭和42年3月22日	松井 敏	〒730-8523 広島県広島市中区八丁堀7-11 (電話) 082-228-2266																																									
分野	認定課程名	認定学科名	専門士		高度専門士																																							
医療	医療専門課程	理学療法士科			平成17年文部科学省告示第170号																																							
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、高等学校卒業者に対し医療及び福祉等の技能教育を行い、YMCA(キリスト教青年会)の特色であるキリスト教精神に基づく徳性の涵養、知性の研磨、健康の増進及び健全な社交指導の4方面にわたる民主的「全人教育」を行い、もって地域の医療福祉の向上に資することを目的とする。																																											
認定年月日	平成28年3月31日																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験																																						
4年	昼間	旧124単位	71	19	42	0																																						
		新124単位	74	22	28	0																																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																							
160人	130人	0人	6人	68人	74人																																							
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 科目試験・実習の成績、履修状況、その他の方法に基づいて行う。成績基準はA:80～100点、B:70点～79点、C:60点</p>																																							
長期休み	■夏期:8月下旬～9月末 ■冬期:12月下旬～1月上旬 ■春期:3月下旬～4月上旬			卒業・進級 条件	卒業は、4年以上在籍し、所定の学費を納入し、定められた授業科目を履修し、規程の単位を修得した者。進級は、当該学年の全課程を修了したと認められる者。																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的にクラス担任が個別面談を行い、状況に応じて保護者へ連絡し保護者との面談を行う。また授業によっては補習の時間を設け、学力の底上げを図っている。			課外活動	<p>■課外活動の種類 手話サークル</p> <p>■サークル活動: 有</p>																																							
就職等の 状況※2	<p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 三朝温泉病院、鳥取大学医学部附属病院、養和病院、日南病院、安来第一病院、松江赤十字病院、松江記念病院、島根大学医学部附属病院など</p> <p>■就職指導内容 就職ガイダンスおよび就職説明会の個別面談の実施、面接、電話の掛け方、履歴書の書き方などのマナー講座の授業を行い、就職活動のフォローフォロ体制を組んでいます。</p> <table border="1"> <tr> <td>■卒業者数</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職希望者数</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職者数</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr> <td>■その他 URL</td><td></td><td></td></tr> </table>			■卒業者数	21	人	■就職希望者数	21	人	■就職者数	21	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	100	%	■その他 URL			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> <tr> <td>理学療法士国家試験</td><td>②</td><td>21人</td><td>21人</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士国家試験	②	21人	21人												
■卒業者数	21	人																																										
■就職希望者数	21	人																																										
■就職者数	21	人																																										
■就職率	100	%																																										
■卒業者に占める就職者の割合	100	%																																										
■その他 URL																																												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																									
理学療法士国家試験	②	21人	21人																																									
	(令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																							
中途退学 の現状	<p>■中途退学者 12 名 ■中退率 9.6 %</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者125名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 113名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な面談、スクールカウンセリング、保護者との面談など</p>				<p>■自由記述欄</p>																																							
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生入試で認定を受けた場合、認定基準によって学費を免除</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																											
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: (有・無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体:一般社団法人リハビリテーション教育評価機構、受審年月:2017.7.12</p>																																											
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.hymcajp.yonago/																																											

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は本校の実習施設の指導者、関連団体の役職員、学生の就職先である病院・福祉施設の医療あるいは福祉の専門職を委員として委嘱する。委員会は、本校の実践的な職業教育の質の向上のために、現場の意見として本校の教育課程に関する意見を委員から聴取し、その意見をもとに本校教育課程に足りないもの、余分なもの、改善させるべきものを明らかにし、カリキュラムの改善に役立たせる。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は本校の主務者、教務部長、各科科長からなる運営会議(別紙資料 組織図)直属の委員会である。

教育課程編成委員会で聴取された意見は、運営会議で検討し、決定した内容をさらに教務委員会で細部を検討し、それを元に各科の教育課程を改善していくこととする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
小倉 格	社会福祉法人尚仁福祉会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	(3)
三谷 管雄	清水病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日	(3)
土井 宜幸	介護老人保健施設はまかぜ	令和4年4月1日～令和6年3月31日	(3)
段 敬史	鳥取県作業療法士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	(1)
渡邊 達生	YMCA米子医療福祉専門学校 校長		
馬場 孝	YMCA米子医療福祉専門学校 教務部長		
岩崎 裕子	YMCA米子医療福祉専門学校 理学療法士科 科長		
田住 秀之	YMCA米子医療福祉専門学校 作業療法士科 科長		
増田 孝之	YMCA米子医療福祉専門学校 介護福祉士科 科長		
三谷 信勝	YMCA米子医療福祉専門学校 事務長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 令和3年 6月22日 18:30～19:20

第2回 令和3年 9月21日 18:30～19:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会でカリキュラムや臨床実習について出された意見については、教務委員会等の会議において検討を行い、可能なものは反映させている。また行政や業界の動向について報告を行い、情報の共有を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習については、それぞれ実習目的・実習目標・実習内容を示し、各施設・病院に理解を得た上で、学生が実習目標に到達することができるよう、実習指導者と教員で意見交換を図り、連携をとりながら指導を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

教員は臨床実習Ⅰ(2週間)については中間で施設に電話で連絡を入れ、様子を伺い、必要であれば調整を行う。臨床実習Ⅱ(6週間)、臨床実習Ⅲ・Ⅳ(各8週間)については電話連絡および訪問によって、指導者と調整を行いながら学生の実習指導を行う。学習成果については、実習指導者の評価を元に、セミナーの結果を加味して、理学療法士科の会議で最終的な評価を出す。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、日常的な会話・部分的な介助等何らかの直接的な働きかけの体験を通して、専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。なお、検査・測定の技術の学習(目的と方法を学ぶ)を副次的目的とする。	実習受け入れ施設 計 28施設
臨床実習Ⅱ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 21施設
臨床実習Ⅲ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 27施設
臨床実習Ⅳ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 23施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教職員研修規程」に基づいて、各教員の専門分野の知識、技術を身につけ、日常業務の中でこれらが十分に活用され、本校の教育目的達成に役立つことができるよう研修の計画を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

専任教員がそれぞれの専門性を追究し、最新の知識・技術について学び、それを教育に生かすために、日本理学療法士協会、鳥取県理学療法士協会などの学術集会や研修会に参加した。

②指導力の修得・向上のための研修等

専任教員は理学療法教育の質の向上に向けて、教育方法や担当科目に関する最新の知見を得るために、各種学術集会や研修会に参加した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

専任教員がそれぞれの専門性を追究し、最新の知識・技術について学び、それを教育に生かすために、認定理学療法士の資格取得や、日本理学療法士協会、鳥取県理学療法士協会などの学術集会や研修会に参加する予定である。

②指導力の修得・向上のための研修等

専任教員は理学療法教育の質の向上に向けて、教育方法や担当科目に関する最新の知見を得るために、各種学術集会や研修会に参加する予定である。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

毎年学校で行う自己評価結果について、学校が選定した学校関係者評価委員から構成される学校関係者評価委員会でその結果について検討を行う。そこで検討された委員会の客観的な意見は、学校運営の改善を図るうえで反映していく方針である。学校評価委員会では学校で行う自己評価結果の説明を行うと共に、自己点検評価の根拠となる資料の提供を行う等の情報を提供し、学校評価委員に意見や助言が得られやすくなるよう努める。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の報告書を教員会議において共通理解する。その上で、各科の科会や学校運営会議を通じて学校関係者評価委員会で出された意見を検討し、学校運営に反映させていくこととしている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
段 敬史	介護老人保健施設サンライズ名和	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
小倉 格	社会福祉法人尚仁福祉会	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
稲田 政雄	社会福祉法人みづうみ	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
安達 久美子	鳥取県済生会境港総合病院	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
吾郷 秀吉	博愛病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
鷺見 洋	デイサービスセンター博愛苑	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和4年7月

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.hymca.jp/yonago/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校に関係のある病院・施設の関係者が、本校について理解し、連携、協力を図っていくために、本校の教育方針を始めとした学校運営についての情報を可能な限り提供する。必要な情報については学校HPに掲載し公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.hymca.jp/yonago/>

授業科目等の概要

(医学専門課程理学療法士科) 令和3年度(旧カリキュラム)										企業等との連携			
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法	場所	教員	
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任
○			心理学	心理学は人間を理解し、支援しようとする様々なルートの一つである。また、心理学それ自体が人間を理解し、支援しようとする様々なルートをもつていて、研究領域も広範にわたる。受講生は授業内容の各領域を学習し、人の心の動きや行動ー今現在の自分や他者を理解し、あわせて学ぶ人の将来の職業生活や実践活動に結びつく学習をすすめたい。			1前	30	2	○	○		○
	○		人間関係論 I	自己理解と他者理解を深め、“人間関係”について客観的に学ぶ。日常生活や学生生活、ひいては対人援助職として、円滑に人間関係を構築するための方法を演習を通して学ぶ。			1前	15	1	△ ○	○		○
	○		人間関係論 II	人間は生まれた時から様々な人と関係を持ちながら生きている。自身のこれまでの人間関係について振り返りながら、よりよい人間関係を構築するための方法を講義と演習を通じて学ぶ。			1後	15	1	○ △	○		○
	○		法学	「私達の生活と法の役割」という観点から、人権問題に特に焦点をしぼり、社会生活と法との関係について学ぶ。			1前	30	2	○	○		○
	○		経済学	戦後の日本経済の歴史、戦後復興から高度経済成長、長期経済停滞からアベノミクスと経済成長戦略の流れを学ぶ。			1前	30	2	○	○		○
○			物理学	少しでも物理学というものに興味を抱いてもらうために、数式の羅列に頼らないで身近な話題を中心に授業を行う。			1後	30	2	○	○		○
○			生物学	生物学が他の学問と違う点は「生きている物」を相手にするという点にある。では「生きている」とは実際にはどういうことなのか。この点について自分自身で考える参考にする。			1前	30	2	○	○		○
	○		生命科学	前半では、遺伝子を中心として分子生物学、細胞生物学の基礎事項を身につけます。後半では、生命科学に関連するニュースなどを、分子・細胞生物学的な背景を通して理解する。			1後	30	2	○	○		○
○			情報処理学	文章作成(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。			1前	30	2	○ △	○		○

○		統計学	表計算ソフト(Excel)と統計解析ソフト(Statcel)を使って、医療・福祉に関連するデータを中心に統計学的な分析を行う。	1 後	30	2	○	△	○	○	○	○
	○	保健体育学	各種のスポーツで、運動理論と実技力を培い、健康で頑健な身体づくりのノウハウや技法を養う。	1 前	30	1	○		△	○		○
	○	保健体育学実習	運動の得意・不得意にかかわらず積極的に実践し、それぞれの種目の特性を理解して基礎的な技術、知識や協調性を養ってバランスのとれた身体を目指す。	1 後	30	1			○	○		○
○		英語Ⅰ	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 前	30	1		○	○	○		
○		英語Ⅱ	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 後	30	1		○	○	○		
	○	英語Ⅲ	会話の聞き取り、対話練習を通じて日常会話に必要な英語力の育成を目指す。	2 前	30	1		○	○	○		
	○	英語Ⅳ	リハビリテーションの現場で使われる用語、表現などを学び、専門職としてスタッフ、患者とのコミュニケーションができることを目指す。	2 後	30	1		○	○	○		
	○	英語Ⅴ	医療、リハビリテーションに関する英文資料を読み、グローバルな視点で医療、リハビリテーションに対する考えを深めることを目的とする。	3 前	30	1		○	○	○		
○		スタディスキルⅠ	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 前	30	1	○	△	○	○		
○		スタディスキルⅡ	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 後	30	1	○	△	○	○		
○		解剖学Ⅰ	人体の構成要素(細胞・組織)と階層性を理解する。これらの理解のもと、外皮、消化器、呼吸器、循環器、内分泌器、泌尿生殖器、感覚器の各器官の成り立ち(構造・発生)と関連、その役割を理解する。	1	30	1	○		○		○	
○		解剖学Ⅱ	1. 骨学 2. 関節靭帯学 3. 筋学について講義を行う。骨学については実習を行う。	1	75	3	○		△	○		○
○		解剖学演習	解剖学授業に合わせて、予習復習をこの授業を足掛かりに進めていく、解剖学の基礎を確実なものにする。	1 前	30	1	△	○	○	○		
○		解剖学実習	解剖学実習により解剖学の基礎を確実なものにする。	2 後	15	1	△		○	○		○

○		生理学 I	人体の各臓器の役割を解説し、それらの働きがどのようなメカニズムによって調節されているか説明する。また、種々の機能を測定する検査法を紹介し、その原理を理解することも大切である。さらに、病気の時に見られる症状がどのようにして起こるのか、生理学的な思考法で考えられるようにトレーニングを行う。	1 前	30	1	○		○		○	
○		生理学 II	人体の各臓器の役割を解説し、それらの働きがどのようなメカニズムによって調節されているか説明する。また、種々の機能を測定する検査法を紹介し、その原理を理解することも大切である。さらに、病気の時に見られる症状がどのようにして起こるのか、生理学的な思考法で考えられるようにトレーニングを行う。	1 後	30	1	○		○		○	
○		生理学実習	講義・実習をとおして、各臓器の機能を理解する。種々の生理検査法の原理を理解する。	2 前	30	1	△	○	○		○	
○		機能解剖学	理学療法を行ううえで重要な『関節』についてその基本的な構造、機能、運動について理解することを目的とする。学習する関節は、基本となる6大関節とする。	1 後	30	1	○		○		○	
○		神経生理学	神経系の解剖学的・機能的成り立ちから、運動系・感覚系および脳の高次機能について、理学療法士・作業療法士との関連の深いものをより重点的に学習する。	2 前	30	1	○		○		○	
○		生化学	生命現象(生体内の代謝)を理解するための基礎知識を習得する。	2 前	30	1	○		○		○	
○		運動学	理学療法士に必要な人の基本的な身体運動とそのしくみ、および運動に関連した生体の機能と関節構造・役割について、理解することを目的とする。	2 前	30	1	○		○		○	
○		運動学実習	ヒトの運動・動作を理解し、観察・測定・分析ができるなどを目的とする。さらに実習結果の内容をまとめ理学療法の思考過程を実践できることを目的とする。	2 後	30	1	△	○	○		○	
○		人間発達学	身体構造の成長のみならず、心理・社会的な発達も含め、胎児期から成人期に至るまで継続して起こる心身の変化を学ぶ。	2 後	30	1	○		○		○	
○	○	スポーツ生理学	運動によって引き起こされる生体内の生理学的反応について、特にスポーツパフォーマンスと関係の深い筋力、および呼吸・循環系を中心に理解を深める。	3 前	15	1	○		○		○	
○		病理学概論	病気のなりたちと経過に関する基本的知識の修得	1 後	15	1	○		○		○	
○		病態生理学	理学療法、作業療法を行ううえで、特に理解が必要な病態とその生理学について学び、理解する。	2 前	15	1	○		○		○	

○		リハビリテーション医学	1、失語症・構音障害・嚥下障害 2、義肢装具および補装具給付体系他 3、高次脳機能障害 4、老化と認知障害 5、中枢神経障害系領域(急性期から維持期) 6、小児の発達障害領域のリハビリテーション医療、PT/OT評価からアプローチについて学ぶ。	3	30	1	○		○		○		○
○		内科学	呼吸器・循環器・消化器に関する基礎知識ならびにこれらの疾患の診断・治療について学習し、理学療法士・作業療法士に必要な病態を学ぶ。	2	45	2	○		○		○		○
○		整形外科学	運動器医学における疾患、病態、治療法を正しく理解する。	2	45	2	○		○		○		○
○		神経内科学	神経内科診療全般を学習し、疾患の理解を深める。 リハビリテーションに応用できる知識を習得する。	2 後	30	1	○		○		○		○
○		精神医学	精神疾患の概念、症状、治療、接し方などを講義する。	2 前	30	1	○		○		○		○
○		小児科学	小児科学では、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における疾病や健康問題を扱う。	2 前	30	1	○		○		○		○
○		医学検査法	理学・作業療法士として必要な臨床生理検査についての知識を深める。また、理学・作業療法士として、臨床生理検査との関わりについて学び理解する。	2 前	30	1	○		○		○		○
○		臨床心理学	医療・福祉の現場で起こるさまざまな問題・事象に目を向け、臨床心理学的視点から考え、理解を深める	1 後	30	1	○		○		○		○
○		チームアプローチ論	一人の対象者に対してチームアプローチを展開していくうえで、より良い協働関係を築くために近接職種について理解する。	4 後	15	1		○	○		○		○
○		リハビリテーション概論	日本の医療制度の現状、リハビリテーションの理念、リハ医学の考え方、リハ医療の現状・位置づけなどについて紹介し一緒に考えていく中で、今後の専門科目へ向けての取り組み方、リハ専門職としてのあり方など学生自ら考えていくヒントになればと思います。	1 後	30	1	○		○		○		○
○	○	障害者スポーツ論	身体障害者スポーツの意義と理念、国内外の障害者スポーツを学ぶ。障害者スポーツにおける残存機能別の姿勢・運動能力を基礎学問である解剖・運動学を通して学ぶ。	3 後	15	1	○		△	○		○	
○		公衆衛生学	人々の健康に係わる各種要因を解明し、その問題解決を図るために知識、態度、および技術の修得を目的に、生命の誕生から死に至る各ライフステージにおける健康問題や環境問題についての理解を深めるとともに、解決への視点を模索する。	2 後	30	1	○		○		○		○

○		社会保障制度概論	権利擁護を意識した、社会保障制度の基礎を学習する。	1 後	30	1	○			○		○	
○		理学療法学概論Ⅰ	理学療法の定義、役割・責務、理学療法士に必要な資質・倫理について学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○	
○		理学療法学概論Ⅱ	理学療法および理学療法士の業務内容について理解し、理学療法士像を明確にする。	1 後	30	1	○			○		○	
○		臨床運動学	これまでの講義の中で学んだ解剖学、生理学、運動学の知識をより臨床に対応させた形で学び、「ヒトの身体や動き」とはどういうものかを姿勢・動作の観察・分析および触診を通してより深く理解する。	3 前	30	1	○		△	○		○	
○		理学療法管理学	卒後、理学療法士として働いていくために、一社会人として組織の中で働くとはどういうことか、自分のキャリアをどのように考えるかなどについて理解する。	4 後	15	1	○			○		○	
○		理学療法学研究	理学療法における疑問点を研究的側面から目的意識を持って、文献収集をして研究計画を立て、実施し、研究発表、論文執筆するという一連の過程を経験する。全体講義以外は各担当教員ごとのゼミ形式で行う。なお、本講座における論文は卒業研究論文となる。	4 後	90	3	△	○	△	○		○	
○		理学療法セミナーⅠ	理学療法士に必要な専門基礎分野から専門分野についての知識の整理を行い、理解を深め、国家試験に対応できる。	4 後	90	3		○		○		○	
○		理学療法セミナーⅡ	臨床実習において、担当した1症例について症例報告を作成・発表し、自分の行った理学療法について振り返る。	4 後	30	1		○		○		○	
○		理学療法評価学総論	理学療法には評価（観察、検査・測定、検査・測定結果の記録、統合と解釈）、目標の設定、理学療法プログラムの作成と実施、再評価という一連の過程が含まれる。本科目では、理学療法における評価の概念について学習する。	1 前	15	1	○		△	○		○	
○		運動機能評価学実習	基本的な関節可動域、徒手筋力検査などの運動機能評価法を理解し実施できることを目的とする。	1 後	30	1	△			○	○	○	
○		中枢神経機能評価学実習	中枢神経系の理学療法評価を構成する検査・測定の目的、意義、内容、方法を理解し、実技演習により実践できるようになることを目的とする。	2 後	30	1	△			○	○	○	
○		内部機能評価学実習	本授業ではバイタルサイン、フィジカルアセスメントを中心に基本的な呼吸器、循環器の評価について学習し、習得する	2 前	30	1	△			○	○	○	

○		クリニカルリーズニング	各教員のもとに少人数グループで症例検討を実施する。各ケースの基礎的事項の確認から評価、理学療法プログラムの立案までを行い、初期評価レポートをまとめる。	3 前	15	1		○	○	○	○		
○		理学療法評価学演習	理学療法の対象者を担当した場合の基礎的事項の確認から評価、理学療法プログラム作成の過程について学び、これまで学んだことを統合する。その中で、問題解決能力を養う。	3 前	30	1	△	○	○	○	○		
○		運動療法学総論	理学療法を構成する治療技術の一つである「運動療法」について理解を深め、種々の運動療法が基礎知識を踏まえて説明できることを目的とする。	1 前	30	1	○		○	○	○		
○		運動療法学実習	種々の運動療法をリスク管理も含めて実施できるようになる。	1 後	30	1	△		○	○	○		
○		日常生活活動学	日常生活活動（ADL）の基礎的な知識を習得し、援助・評価方法について理解する。	2 前	30	1	○		○	○	○		
○		日常生活活動学実習	理学療法の大きな柱であるADLの評価、訓練、指導において基礎的な知識と技術を習得する。	2 後	30	1	△		○	○	○		
○		義肢装具学	歩行を中心とした動作のメカニクスを理解した上で義肢装具に関する基礎的知識を学習する。装具の種類や有する構造を学習した上で、装具の目的を理解する。	2 前	30	1	○		△	○		○	
○		義肢装具学実習	義肢装具の基本的知識をベースとして症例検討・実習・義肢装具作製過程の見学ならびに作製を通じてより実践的な知識の発展を図ることを目的とする。	2 後	30	1	△		○	○	○	○	
○		物理療法学	物理療法の定義、位置づけ、現状、課題および各種物理療法について学ぶ。	2 前	30	1	○		○	○	○		
○		物理療法学実習	物理療法におけるリスク管理について学び、物理療法学で学習した各療法の効果、適応と禁忌、注意事項などをふまえて、各種の物理療法を学生相互で体験し、安全かつ効果的な物理療法の実際にについて学ぶ。	2 後	30	1	△		○	○	○		
○		運動器疾患理学療法学 I	運動器疾患に対する理学療法の目的、意義、内容、方法を理解し実践できることを目的とする。	2 後	30	1	○		△	○	○	○	
○		運動器疾患理学療法学実習 I	運動器疾患の臨床像を理解し、理学療法を展開できることを目的とする。	3 前	30	1	△		○	○	○	○	
○		運動器疾患理学療法学 II	脊髄損傷・関節リウマチ（R A）および、切断に関連する疾患（熱傷、末梢循環障害、下肢切断）について臨床症状と障害・ADLレベルの関連性について学び、理解する。	3 前	30	1	○		△	○	○		

○		運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	脊髄損傷・関節リウマチ（R A）および、切断に関連する疾患（熱傷、末梢循環障害、下肢切断）について臨床症状と障害・ADLレベルの関連性について学び、理解する。	3後	30	1	△	○ ○	○		
○		脳血管疾患理学療法学	脳血管障害における病態、障害像、評価および理学療法について理解することを目的とする。	3前	30	1	○	△ ○	○		
○		脳血管疾患理学療法学実習	脳血管疾患理学療法学で学んだ内容に加えて、脳血管障害の理学療法において関わる合併症やその他の障害などについて理解する。	3後	30	1	△	○ ○	○		
○		神経・筋疾患理学療法学	中枢神経疾患のうち神經筋疾患を中心に学び、理学療法アプローチを実施するための推論が行えるようになることを目的とする。	3前	30	1	○	○ ○	○		
○		神経・筋疾患理学療法学実習	神経筋疾患に対する臨床推論に基づき、理学療法プログラムの立案、実施できるようになることを目的とする。	3後	30	1	△	○	○		
○		小児理学療法学	脳性麻痺を主体とする肢体不自由児に関する評価から治療までの理論と実際について学ぶ。	3後	15	1	○	○	○	○	
○		循環器疾患理学療法学	種々の検査や評価から、目に見えない循環器系障害の病態を把握し、リスクの層別化とリスク管理を行いながら有効な理学療法を実施していくために必要な知識と技術について系統的に学ぶ。	3前	15	1	○	△ ○	○		
○		循環器疾患理学療法学実習	種々の検査や評価から、目に見えない循環器系障害の病態を把握し、リスクの層別化とリスク管理を行いながら有効な理学療法を実施していくために必要な知識と技術について系統的に学ぶ。	3前	15	1	△	○ ○	○		
○		呼吸・代謝疾患理学療法学	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3後	15	1	○	△ ○	○		
○		呼吸・代謝疾患理学療法学実習	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3後	15	1	△	○ ○	○		
○		ケーススタディ	前期に行ったクリニカルリーズニングの初期評価レポートをグループでまとめ、発表する。	3後	15	1	○	○ ○	○		
	○	健康増進	健康とは何か、健康に対する国の政策と理学療法士の役割、障害を起こさないための予防理学療法について学ぶ。	4後	15	1	○ △	○ ○	○		
	○	スポーツ理学療法学	代表的なスポーツ外傷・障害について学び、理解する。そして、評価、運動療法、テープング法を用いたリハビリテーションについて学習し、その知識、技術を習得する。	3後	30	1	○	△ ○	○		

		○ 癌の理学療法	近年注目されている癌のリハビリテーションにおける理学療法士の役割について、その知識、技術を習得する。	4 後	15	1	○			○		○
		○ 理学療法技術論演習	第4学年までに修得した理学療法に関する知識および技術を補足し、卒業後の臨床場面における活用について理解する。	4 後	30	1	△	○	△	○	○	○
○		地域理学療法学	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念および地域リハに必要な知識の取得を行なう。	3 前	30	1	○			○	○	
○		地域理学療法学実習	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。また、地域での各領域に対する理学療法士の活動について理解する。	3 後	30	1	△		○	○	○	○
○		生活環境論	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。	3 前	15	1	○	△		○	○	
○		福祉用具論	在宅障害者や高齢者の自立生活援助および介護者の普段軽減につなげるため、福祉用具の適切な選択や、福祉用具の使用方法に関する知識と技術を身につけることを目的とする。	3 後	15	1	○		△	○	○	
○		臨床実習Ⅰ	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、日常的な会話・部分的な介助等何らかの直接的な働きかけの体験を通して、専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。	2 後	90	2			○	○	○	○
○		臨床実習Ⅱ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	3 後	270	6			○	○	○	○
○		臨床実習Ⅲ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8			○	○	○	○
○		臨床実習Ⅳ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8			○	○	○	○
○		臨床実習セミナー	臨床実習を振り返り、学んだことを整理し、今後の課題を明確にする。また、学習経験の交換や問題点の整理および解決策について討議を行い、臨床実習での学びをさらに深める。	4 後	45	1		○		○	○	
合計			96科目	3	7	3	5	単位時間(1	3	2	単位)

卒業要件及び履修方法							授業期間等		
4年以上在籍し、所定の学費を納入し、卒業に必要と定められた授業科目を履修し、規程する単位を修得する。							1学年の学期区分	前・後期	
							1学期の授業期間	15週	

授業科目等の概要

(医学専門課程理学療法士科) 令和3年度(新カリキュラム)											企業等との連携					
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			心理学	心理学は人間を理解し、支援しようとする様々なルートの一つである。また、心理学それ自体が人間を理解し、支援しようとする様々なルートをもつていて、研究領域も広範にわたる。受講生は授業内容の各領域を学習し、人の心の動きや行動ー今現在の自分や他者を理解し、あわせて学ぶ人の将来の職業生活や実践活動に結びつく学習をすすめたい。			1前	30	1	○		○		○		
○			人間関係論	自己理解と他者理解を深め、“人間関係”について客観的に学ぶ。日常生活や学生生活、ひいては対人援助職として、円滑に人間関係を構築するための方法を演習を通して学ぶ。			1前	15	1	○△		○		○		
○			コミュニケーション論	人間は生まれた時から様々な人と関係を持ちながら生きている。自身のこれまでの人間関係について振り返りながら、よりよい人間関係を構築するための方法を講義と演習を通じて学ぶ。			1後	15	1	○△		○		○		
○			経済学	戦後の日本経済の歴史、戦後復興から高度経済成長、長期経済停滞からアベノミクスと経済成長戦略の流れを学ぶ。			1前	30	1	○		○		○		
○			物理学	物理学の基礎である力学について、力の概念、作用の仕方、ヒトにおける力の働き方等に関する理解を理解する。			1後	15	1	○		○		○		
○			生物学	細胞および遺伝子の構造と機能を学び、細胞の集まりとしての生物の基礎について理解する。			1前	30	1	○		○		○		
○	○		生命科学	前半では、遺伝子を中心として分子生物学、細胞生物学の基礎事項を身につけます。後半では、生命科学に関連するニュースなどを、分子・細胞生物学的な背景を通して理解する。			1後	30	1	○		○		○		
○			情報処理学	文章作成(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。			1前	30	1	○△		○		○		
○			統計学	表計算ソフト(Excel)と統計解析ソフト(Statcel)を使って、医療・福祉に関連するデータを中心に統計学的な分析を行う。			1後	30	1	○△		○		○		

○		ウェルネス I	各種のスポーツで、運動理論と実技力を培い、健康で頑健な身体づくりのノウハウや技法を養う。	1 前	30	1	○		△	○		○	
○		ウェルネ斯 II	運動の得意・不得意にかかわらず積極的に実践し、それぞれの種目の特性を理解して基礎的な技術、知識や協調性を養ってバランスのとれた身体を目指す。	1 後	30	1			○	○		○	
○		医療英語	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 前	30	1		○	○	○		○	
○		医療英会話	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 後	30	1	○	○	○	○		○	
○		スタディスキル I	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 前	30	1	○	△		○	○		
○		スタディスキル II	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 後	30	1	○	△		○	○		
○		キャリアデザイン	自分自身のキャリアデザインをし、社会の中における自分の役割を理解する。	1 前	30	1	○	△		○	○		
○		解剖学 I	人体の構成要素（細胞・組織）と階層性を理解する。これらの理解のもと、外皮、消化器、呼吸器、循環器、内分泌器、泌尿生殖器、感覚器の各器官の成り立ち（構造・発生）と関連、その役割を理解する。	1	30	1	○			○		○	
○		解剖学 II	1. 骨学 2. 関節靭帯学 3. 筋学について講義を行う。骨学については実習を行う。	1	75	3	○		△	○		○	
○		解剖学演習 I	解剖学授業に合わせて、予習復習をこの授業を足掛かりに進めていき、解剖学の基礎を確実なものにする。	1	60	2	△	○		○	○		
○		解剖学演習 II	解剖学演習により解剖学の基礎を確実なものにする。	2 後	15	1	△	○		○		○	
○		生理学 I	人体の各臓器の役割を解説し、それらの働きがどのようなメカニズムによって調節されているか説明する。また、種々の機能を測定する検査法を紹介し、その原理を理解することも大切である。さらに、病気の時に見られる症状がどのようにして起こるのか、生理学的な思考法で考えられるようにトレーニングを行う。	1 前	30	1	○			○	○		

○		生理学Ⅱ	人体の各臓器の役割を解説し、それらの働きがどのようなメカニズムによって調節されているか説明する。また、種々の機能を測定する検査法を紹介し、その原理を理解することも大切である。さらに、病気の時に見られる症状がどのようにして起こるのか、生理学的な思考法で考えられるようにトレーニングを行う。	1 後	30	1	○		○		○		
○		生理学実習	講義・実習をとおして、各臓器の機能を理解する。種々の生理検査法の原理を理解する。	2 前	30	1	△		○	○		○	
○		機能解剖学	理学療法を行ううえで重要な『関節』についてその基本的な構造、機能、運動について理解することを目的とする。学習する関節は、基本となる6大関節とする。	2 前	30	1	○		○	○		○	
○		神経生理学	神経系の解剖学的・機能的成り立ちから、運動系・感覚系および脳の高次機能について、理学療法士・作業療法士との関連の深いものをより重点的に学習する。	2 前	30	1	○		○		○		
○		運動学	理学療法士に必要な人の基本的な身体運動とそのしくみ、および運動に関連した生体の機能と関節構造・役割について、理解することを目的とする。	2 後	15	1	○		○	○		○	
○		人間発達学	新生児から高齢者に至るまで、広範な対象者の社会的存在を捉える上で、それぞれのライフステージ、発達段階を関連づけて学習し、理解を深める。また、発達学的問題や社会的課題は何か、グループ課題を通して学生間で協調しながら学ぶ。	2 後	30	1	○		○		○		
○		病理学概論	病気のなりたちと経過に関する基本的知識の修得	1 後	15	1	○		○		○		
○		病態生理学	理学療法、作業療法を行ううえで、特に理解が必要な病態とその生理学について学び、理解する。	2 前	15	1	○		○	○		○	
○		リハビリテーション医学	1、失語症・構音障害・嚥下障害 2、義肢装具および補装具給付体系他 3、高次脳機能障害 4、老化と認知障害 5、中枢神経障害系領域(急性期から維持期) 6、小児の発達障害領域のリハビリテーション医療、PT/OT評価からアプローチについて学ぶ。	3	30	1	○		○		○		
○		内科学	呼吸器・循環器・消化器に関する基礎知識ならびにこれらの疾患の診断・治療について学習し、理学療法士・作業療法士に必要な病態を学ぶ。	2 前	30	1	○		○		○		
○		整形外科学	運動器医学における疾患、病態、治療法を正しく理解する。	2 前	30	1	○		○		○		
○		神経内科学	神経内科診療全般を学習し、疾患の理解を深める。リハビリテーションに応用できる知識を習得する。	2 後	30	1	○		○		○		

○		精神医学	精神疾患の概念、症状、治療、接し方などを講義する。	2 前	30	1	○			○		○
○		小児科学	小児科学では、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における疾病や健康問題を扱う。	2 前	15	1	○			○		○
○		医学検査法	理学・作業療法士として必要な臨床生理検査についての知識を深める。また、理学・作業療法士として、臨床生理検査との関わりについて学び理解する。	3 前	30	1	○			○		○
○		臨床心理学	医療・福祉の現場で起こるさまざまな問題・事象に目を向け、臨床心理学的視点から考え、理解を深める	1 後	30	1	○			○		○
○		救急法	意識障害・呼吸停止・心停止などに際する一次救命処置（心肺蘇生法およびA E D操作）を習得することに加えて、内科的救急ならびに外傷などの外科的救急において、傷病者の観察による正しい応急手当の判断、そして、その手当の実際に必要な知識や技術を習得する。	2 後	15	1	○		△	○		○
○		老年学	これまでの専門基礎科目で学んだ生理・身体・心理・精神・社会的機能を、高齢者として統合理解し、それらの諸特性に合わせ知識として修得することを目的とする。	2 後	15	1	○			○		○
○		薬理学	リハビリテーションの対象者が服用している薬物の使用目的やその作用機序、主作用、副作用などについて学ぶ。	3 前	15	1	○			○		○
○		予防医学	一次予防から三次予防まで広く学び、発症予防から再発予防まで理解する。	3 後	15	1	○			○		○
○		栄養学	対象者の栄養状態は生命・生活の予後と密接な関係があるため、栄養の摂取、補給とこれに伴う内部環境・代謝などについて学ぶ。	3 後	15	1	○			○		○
○		リハビリテーション疾患学	理学療法とかかわりの深い代表的な疾患について、理学療法に必要な解剖生理・病態・症状・診断・治療・リスクなどの理解を深める。	2 後	30	1	○			○		○
○		チームアプローチ論	一人の対象者に対してチームアプローチを展開していくうえで、より良い協働関係を築くために近接職種について理解する。	4 後	15	1		○		○		○
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションについて正しく理解し、基本的な考え方を身につける。	1 後	15	1	○			○		○

○		公衆衛生学	人々の健康に係わる各種要因を解明し、その問題解決を図るために知識、態度、および技術の修得を目的に、生命の誕生から死に至る各ライフステージにおける健康問題や環境問題についての理解を深めるとともに、解決への視点を模索する。	4 後	15	1	○			○		○
○		社会保障制度概論	権利擁護を意識した、社会保障制度の基礎を学習する。	3 後	30	1	○			○		○
○		地域リハビリテーション概論	地域における要介護者の実態、地域を支えるシステム、地域連携などについて学び、社会で求められているリハビリテーションについて理解する。	3 前	15	1	○			○		○
○		理学療法学概論	理学療法士という職業について理解を深める。	1 前	30	1	○			○		○
○		理学療法学概論演習	理学療法学概論で学んだことをもとに、臨床施設見学を行い、理学療法および理学療法士について理解を深める。また、理学療法士像を具体化できる。	1 後	15	1	△	○		○	○	○
○		理学療法学研究Ⅰ	理学療法における疑問点を研究的側面から目的意識を持って、文献収集をして研究計画を立て、実施し、研究発表、論文執筆するという一連の過程を経験する。全体講義以外は各担当教員ごとのゼミ形式で行う。なお、本講座における論文は卒業研究論文となる。	4 後	15	1	△	○	△	○		○
○		理学療法学研究Ⅱ	理学療法における疑問点を研究的側面から目的意識を持って、文献収集をして研究計画を立て、実施し、研究発表、論文執筆するという一連の過程を経験する。全体講義以外は各担当教員ごとのゼミ形式で行う。なお、本講座における論文は卒業研究論文となる。	4 後	15	1	△	○	△	○		○
○		理学療法セミナーⅠ	理学療法士に必要な専門基礎分野から専門分野についての知識の整理を行い、理解を深め、国家試験に対応できる。	4 後	60	2		○		○		○
○		理学療法セミナーⅡ	臨床実習において、担当した1症例について症例報告を作成・発表し、自分の行った理学療法について振り返る。	4 後	30	1		○		○		○
○		理学療法管理学Ⅰ	臨床見学見学実習に臨むにあたり、臨床実習教育と理学療法士の治療業務以外の業務について理解する。	2 後	15	1	○			○		○
○		理学療法管理学Ⅱ	臨床見学見学実習に臨むにあたり、臨床実習教育と理学療法士の治療業務以外の業務について理解する。	4	15	1	○			○		○

○		理学療法評価学	理学療法の一連の過程における評価の概念について学ぶ。また、評価の一部である検査・測定についても学ぶ。	1 前	30	1	○		△	○	○		
○		運動機能評価学 I	運動機能評価法である徒手筋力検査法を理解し実施できることを目的とする。	1 後	30	1	△		○	○	○		
○		運動機能評価学 II	理学療法に必要な運動器の機能評価を理解し実施できることを目的とする。	1 後	30	1	△		○	○	○		
○		中枢神経機能評価学	中枢神経系の理学療法評価を構成する検査・測定の目的、意義、内容、方法を理解し、実技演習により実践できるようになることを目的とする。	2 後	30	1	△		○	○	○		
○		内部機能評価学	本授業ではバイタルサイン、フィジカルアセスメントを中心に基本的な呼吸器、循環器の評価について学習し、習得する	2 前	30	1	△		○	○	○		
○		臨床推論演習	理学療法における臨床推論過程について学ぶ。	3 前	30	1		○		○	○		
○		体表解剖学	1年次に学修した解剖学をもとに、解剖学的知識を整理し、また体表から触れられる解剖学的構造の触診を通して、組織や機能解剖について学習する。	2 前	30	1	△		○	○	○		
○		動作分析学	「ひとの身体や動き」について姿勢・動作の観察・分析の実際にについて学ぶ。	3 前	30	1	○			○	○		
○		画像評価学	理学療法に必要な主な画像情報について理解し、画像情報を理学療法の評価・介入にどのように役立てるかについて学ぶ。	3 前	15	1	○			○	○		
○		運動療法学基礎	理学療法を構成する治療技術の一つである「運動療法」について理解を深め、種々の運動療法が基礎知識を踏まえて説明できることを目的とする。	1 前	30	1	○			○	○		
○		運動療法学実習 I	種々の運動療法をリスク管理も含めて実施できるようになる。	2 前	30	1	△		○	○	○		
○		運動療法学実習 II	種々の運動療法をリスク管理も含めて実施できるようになる。	2 後	30	1	△		○	○	○		
○		日常生活活動学	日常生活活動 (ADL) の基礎的な知識を習得し、援助・評価方法について理解する。	2 前	30	1	○		△	○	○		

○		日常生活活動学実習	日常生活活動(ADL)の基礎知識をもとに、理学療法の対象となる代表疾患のADLの概要およびその支援方法を学習する。	2 後	30	1	△	○	○	○		
○		義肢装具学Ⅰ	歩行を中心とした動作のメカニクスを理解した上で義肢装具に関する基礎的知識を学習する。装具の種類や有する構造を学習した上で、装具の目的を理解する。	2 前	30	1	○	△	○		○	
○		義肢装具学Ⅱ	義肢装具の基本的知識をベースとして症例検討・実習・義肢装具作製過程の見学ならびに作製を通じてより実践的な知識の発展を図ることを目的とする。	2 後	15	1	○	△	○	○	○	
○		物理療法学Ⅰ	温熱療法・超音波療法・寒冷療法・水治療法の物理的刺激の特徴とそれによって生じる生理学的反応・効果、適応・禁忌について理解し、安全かつ効果的な物理療法が実施できるようになることを目的とする。	2 前	30	1	○	△	○	○		
○		物理療法学Ⅱ	電気刺激療法・光線療法・牽引療法の物理的刺激の特徴とそれによって生じる生理学的反応・効果、適応・禁忌について理解し、安全かつ効果的な物理療法が実施できるようになることを目的とする。	2 後	30	1	○	△	○	○		
○		運動器疾患理学療法学Ⅰ	運動器疾患に対する理学療法の目的、意義、内容、方法を理解し実践できることを目的とする。	2 後	30	1	○	△	○	○		
○		運動器疾患理学療法学Ⅱ	脊髄損傷・関節リウマチ(RA)および、切断に関連する疾患(熱傷、末梢循環障害、下肢切断)について臨床症状と障害・ADLレベルの関連性について学び、理解する。	3	45	1	○	△	○	○		
○		神経障害理学療法学Ⅰ	中枢神経疾患のうち神経筋疾患を中心に学び、理学療法アプローチを実施するための推論が行えるようになることを目的とする。	3	30	1	○	○	○	○		
○		神経障害理学療法学Ⅱ	神経筋疾患に対する臨床推論に基づき、理学療法プログラムの立案、実施できるようになることを目的とする。	3	30	1	○	○	○	○		
○		小児理学療法学	脳性麻痺を主体とする肢体不自由児に関する評価から治療までの理論と実際について学ぶ。	3 後	15	1	○	○		○	○	
○		循環器疾患理学療法学	種々の検査や評価から、目に見えない循環器系障害の病態を把握し、リスクの層別化とリスク管理を行いながら有効な理学療法を実施していくために必要な知識と技術について系統的に学ぶ。	3 後	30	1	○	△	○		○	
○		呼吸器疾患理学療法学	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3 前	30	1	○	○	○	○		
○		代謝疾患理学療法学	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3	30	1	○	○	○	○		

○		疾患別理学療法演習	臨床実習で経験する代表的な疾患について、それぞれの病態生理から理学療法までの一連の流れについて学ぶ。	3 後	30	1	△	○	○	○	○		
○		予防理学療法学	障がいを引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防・再発予防を含む身体活動に対する理学療法について学ぶ。	4 後	15	1	○		○	○	○		
○		スポーツ理学療法学	代表的なスポーツ外傷・障害について学び、理解する。そして、評価、運動療法、テーピング法を用いたリハビリテーションについて学習し、その知識、技術を習得する。	3 前	30	1	○		△	○	○		
○		理学療法技術論演習	第4学年までに修得した理学療法に関する知識および技術を補足し、卒業後の臨床場面における活用について理解する。	4 後	30	1	△	○	△	○	○	○	
○		理学療法特論	第4学年までに修得した基本的理学療法に関する知識および技術をもとに、卒業後の臨床場面における理学療法トピックスについて学ぶ。	4 後	15	1	○		○	○	○		
○		クリニカルセミナーI	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	1	60	2		○	○	○	○		
○		クリニカルセミナーII	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	2	60	2		○	○	○	○		
○		クリニカルセミナーIII	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	3	45	1		○	○	○	○		
○		地域理学療法学	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念および地域リハに必要な知識の取得を行なう。	3 前	30	1	○		○	○	○		
○		地域理学療法学演習	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。また、地域での各領域に対する理学療法士の活動について理解する。	3 後	15	1	△		○	○	○	○	
○		生活環境論	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。	3 前	15	1	○	△		○	○		
○		臨床見学実習	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、理学療法や理学療法士についての理解を深め、コミュニケーション能力を含む専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。	2 後	90	2			○	○	○	○	
○		地域理学療法実習	地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の位置づけや役割について学ぶ。	3 前	45	1			○	○	○	○	

○		臨床実習前評価	臨床実習に臨むための情意・認知・精神運動領域について、準備状態を評価する。	3 後	30	1	○		○	○	○	○	○
○		臨床評価実習	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	3 後	180	4		○	○	○	○	○	○
○		総合臨床実習Ⅰ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8		○	○	○	○	○	○
○		総合臨床実習Ⅱ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8		○	○	○	○	○	○
○		臨床実習後評価	臨床実習を振り返り、学んだことを整理し、今後の課題を明確にする。また、学習経験の交換や問題点の整理および解決策について討議を行い、臨床実習での学びをさらに深める。	4 前	15	1	○	○	○				
合計			100科目	3615	単位時間(124	単位)						

卒業要件及び履修方法 4年以上在籍し、所定の学費を納入し、卒業に必要と定められた授業科目を履修し、規程する単位を修得する。	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週